

平成27年度 事業報告書

() 内は前年度

公益目的事業 1 ～長寿科学研究等支援事業～

長寿科学に携わる研究者に対して、その研究費などを支援する事業

(1) 長寿科学総合研究推進事業 【厚生労働省補助金】

12,104 千円
(11,281 千円)

本推進事業は、厚生労働科学研究費補助金の一つである「推進事業」として、厚生労働省に採択された研究者の長寿科学総合研究課題を支援するため、(1)外国人研究者招へい事業、(2)外国への日本人研究者派遣事業、(3)若手研究者の育成活用事業、(4)国際共同研究事業、(5)研究成果等普及啓発事業を行った。具体的には、高齢者の介護予防や健康保持等に向けた取組を行っていくため、高齢者に特徴的な疾病・病態等に注目し、それらの予防、早期診断及び治療・介入プログラムや標準的ケアの確立に向けた研究を支援するものである。なお、本事業は事業計画の公募により、当財団が応募した事業計画が採択された結果に基づき補助金が交付されている。

No.	事業名		計画数	応募数	実施数	備考
①	外国人研究者招へい事業		1 名	1 名	1 名	
②	外国への日本人研究者派遣事業		1 名	0 名	0 名	再募集は行わず、予算を国際共同研究、研究成果等普及啓発事業へ配分
③	若手研究者育成活用事業		1 名	2 名	1 名	
④	国際共同研究事業		1 課題	2 課題	1 課題	8/1 より研究事業開始
⑤	研究成果等普及啓発事業	研究者向け発表会	1 会場		東京 2 課題	平成 28 年 1 月 29 日(金) KKR ホテル東京で開催
		一般向け発表会	1 会場	4 件	2 会場 千葉、愛知	
		パンフレット作成	1 式		一式 3,100 部	

①外国人研究者招へい事業

長寿科学総合研究の分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招へいし、海外との研究協力を推進するもの。

平成 27 年度採用実績

No	招へい研究者	①国名 ②所属 ③職名	招へい 期間	①受入研究者 ②所属 ③職名 ④招へい地	共同研究課題
1	カシソマヤジ ュラ ビシユワ ナシュ	①アメリカ ②ハーバード大学 T.H. チャン公衆衛生大学院 ③教授	11/24～ 12/1 (8 日間)	①近藤 尚己 ②東京大学大学院医学系研 究科 ③准教授 ④東京都文京区	高齢者における健 康情報へのアクセ スとその活用に関 する社会経済格差 とその対策法に関 する研究

②外国への日本人研究者派遣事業

わが国の若手研究者を外国の研究機関や大学等に派遣し、技術を習得させ、長寿科学総合研究の推進を図るもの。平成 27 年度については、平成 27 年 4 月 10 日から 4 月 24 日まで公募したが応募はなく、2 次募集は行わず予算を国際共同研究事業および研究成果等普及啓発事業へ配分した。

③若手研究者育成活用事業

若手研究者を一定期間(原則1年、最長3年まで継続)財団の非常勤職員として採用し、研究機関等において研究に専念させることにより、将来の我が国の長寿科学研究の中核となる人材の育成を図った。

平成 27 年度採用実績

No	氏名	①受入研究者(役職) ②研究機関	研究課題	備考
1	谷 友香子	①近藤 尚己 (准教授) ②東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻健康教育・社 会学分野	高齢者の孤食の社会的背景 および孤食が及ぼす健康影 響に関する研究	継続採用 (2 年目)

④国際共同研究事業

外国の研究者と日本の研究者が、共同で研究に取り組むことへの支援を行った。

平成 27 年度採用実績

No	氏名	所属(役職)	研究機関(共同研究国)	共同研究課題
1	白井 こころ	琉球大学法文学部 (准教授)	ハーバード大学、ロンドン大 学、トゥルク大学、フィンラン ド労働衛生研究所(アメリ カ、イギリス、フィンランド)	日米英芬の高齢者の社会心 理的背景と健康格差の国際 比較研究

⑤研究成果等普及啓発事業

厚生労働科学研究の研究成果を広く積極的に公開し、普及啓発することにより、科学研究に対する一層の理解の推進を図ることを目的としている。厚生労働科学研究の優れた研究成果を紹介するため、関

係の深い専門的研究を行っている研究者や、一般国民を対象とした発表会を全国各地において開催及び当該研究事業の取り組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、研究成果の普及啓発に努めた。

a. 研究者向け発表会(演者：平成 27 年度で研究課題終了予定研究代表者)

【開催日時】 平成 28 年 1 月 29 日(金)

【開催場所】 KKR ホテル東京 11 階 丹頂の間

【参加者数】 約 50 人

平成 27 年度 発表演者

No	氏名	所属(役職)	発表テーマ
1	近藤 克則	千葉大学 予防医学センター 社会疫学 (教授)	介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究
2	松田 晋哉	産業医科大学 医学部 公衆衛生 (教授)	介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究

b. 平成 27 年度一般向け発表会

No.	開催日時	開催場所	氏名・役職	発表テーマ	参加人数
1	平成 27 年 12 月 15 日(火) 13:00～17:00	千葉県柏市 アミュゼ柏クリスタルホール	飯島 勝矢 東京大学 高齢社会総合研究機構 准教授	「栄養とからだの健康増進事業」3年間から学んだ多くのこと -柏市学術研究・最終結果発表会-	400 人
2	平成 28 年 2 月 28 日(日) 14:00～17:00	愛知県日進市 名古屋学芸大学	下方 浩史 名古屋学芸大学 教授	介護予防・認知症予防の実践方法	120 人

c. パンフレット作成

厚生労働科学研究事業の取り組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、研究成果の普及啓発に努めた。

(2) 認知症対策総合研究推進事業 【厚生労働省補助金】

11,399 千円
(12,232 千円)

本推進事業は、厚生労働科学研究費補助金の一つである「推進事業」として、厚生労働省に採択された研究者の認知症対策総合研究課題を支援するため、(1)外国人研究者招へい事業、(2)外国への日本人研究者派遣事業、(3)若手研究者の育成活用事業、(4)国際共同研究事業、(5)研究成果等普及啓発

事業を行った。具体的には、認知症者の「実態把握」「予防」「診断」「治療」「ケア」という観点に立って、それぞれの観点から施策形成に必要とされる研究を支援するものである。なお、本事業は事業計画の公募により、当財団が応募した事業計画が採択された結果に基づき補助金が交付されている。

No.	事業名		計画数	応募数	実施数	備考
①	外国人研究者招へい事業		1 名	1 名	1 名	
②	外国への日本人研究者派遣事業		1 名	0 名	0 名	再募集は行わず、予算を国際共同研究、研究成果等普及啓発事業へ配分
③	若手研究者育成活用事業		1 名	1 名	1 名	
④	国際共同研究事業		1 課題	1 課題	1 課題	1 次募集で応募がなかったため、2 次募集を実施 10/1 より研究事業開始
⑤	研究成果等普及啓発事業	研究者向け 発表会	1 会場		東京 2 課題	平成 28 年 1 月 29 日(金) KKR ホテル東京で開催
		一般向け発表会	1 会場	2 件	2 会場 東京、熊本	
		パンフレット作成	1 式		1 式 2,800 部	

①外国人研究者招へい事業

認知症対策総合研究の分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招へいし、海外との研究協力を推進するもの。

平成 27 年度採用実績

No	招へい研究者	①国名 ②所属 ③職名	招へい 期間	①受入研究者 ②所属 ③職名 ④招へい地	共同研究課題
1	ジュリー バイ ナム	①アメリカ ②ダートマス大学ガイゼ ル医学部 ③准教授	12/8～ 12/16 (9 日間)	①今中 雄一 ②京都大学大学院医学研究 科医療経済学分野 ③教授 ④京都市左京区	認知症ケアの地域 差の探索、及びエ ビデンスに基づい た政策立案

②外国への日本人研究者派遣事業

わが国の若手研究者を外国の研究機関や大学等に派遣し、技術を習得させ、認知症対策総合研究の推進を図るもの。平成 27 年度については、平成 27 年 4 月 10 日から 4 月 24 日まで公募したが応募はなく、2 次募集は行わず予算を国際共同研究事業および研究成果等普及啓発事業へ配分した。

③若手研究者育成活用事業

若手研究者を一定期間(原則1年、最長3年まで継続)財団の非常勤職員として採用し、研究機関等において研究に専念させることにより、将来の我が国の認知症対策総合研究の中核となる人材の育成を図った。

平成27年度採用実績

No	氏名	①受入研究者(役職) ②研究機関	研究課題	備考
1	田宮 寛之	①秋下 雅弘(教授) ②東京大学医学部附属病院 老年病科	認知症高齢者の介護負担軽減を目指したせん妄・転倒骨折予防法の探索	新規採用

④国際共同研究事業

外国の研究者と日本の研究者が、共同で研究に取り組むことへの支援を行った。

平成27年度採用実績

No	氏名	所属(役職)	研究期間(共同研究国)	共同研究課題
1	今中 雄一	京都大学大学院医学研究科医療経済学分野 (教授)	ロンドン大学キングスカレッジ、 カロリンスカ研究所(イギリス・スウェーデン)	認知症の地域ケア体制におけるケア内容と費用の関連要因と代替性

⑤研究成果等普及啓発事業

厚生労働科学研究の研究成果を広く積極的に公開し、普及啓発することにより、科学研究に対する一層の理解の推進を図ることを目的としている。厚生労働科学研究の優れた研究成果を紹介するため、関係の深い専門的研究を行っている研究者や、一般国民を対象とした発表会を全国各地において開催及び当該研究事業の取り組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、研究成果の普及啓発に努めた。

a. 研究者向け発表会(演者：平成27年度で研究課題終了予定研究代表者)

【開催日時】平成28年1月29日(金)

【開催場所】KKRホテル東京 11階 丹頂の間

【参加者数】約50人

平成27年度発表演者

No	氏名	所属(役職)	発表テーマ
1	小川 朝生	国立がん研究センター 東病院 (分野長)	急性期病院における認知症患者の入院・外来実態把握と医療者の負担軽減を目指した支援プログラムの開発に関する研究
2	鳥羽 研二	国立長寿医療研究センター (理事長)	認知症非薬物療法の普及促進による介護負担の軽減を目指した地域包括的ケア研究

b. 平成 27 年度一般向け発表会

No.	開催日時	開催場所	氏名・役職	発表テーマ	参加人数
1	平成 27 年 11 月 29 日(日) 13:30～17:00	熊本県荒尾市 荒尾総合文化 センター	池田 学 熊本大学大学院 生命科学研究部 教授	認知症のひとと高齢者 を地域で支える在宅医 療ネットワーク	270 人
2	平成 28 年 1 月 23 日(土) 13:00～16:00	東京都千代田 区 秋葉原 UDX	小川 朝生 国立がん研究セン ター 分野長	急性期病院における認 知症対応	60 人

c. パンフレット作成

厚生労働科学研究事業の取り組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、研究成果の普及啓発に努めた。

(3) 長寿科学研究者支援事業 【自主財源】

28,526 千円
(31,750 千円)

長寿科学研究に携わる若手研究者を対象に、その研究活動を幅広く財政的な支援を実施することにより、研究者の育成と長寿科学の振興を図った。1 人あたりの支援限度額は 3 年間で 600 万円としている。

	計画数	応募数	実施数	備 考
継続研究支援 (3 年目)	2 名	2 名	1 名	H27 年 3 月 9 日:評価審査委員会にてプレゼンテーションによる研究成果の発表による審査の結果継続を決定した。
継続研究支援 (2 年目)	8 名	8 名	7 名	
新規研究支援 (1 年目)	5 名	125 名	6 名	H27 年 5 月 19 日:評価審査委員会にて申請分の審査を行った。

平成 27 年度 採択状況

No	研究者	所属施設	研究課題	期間	申請金額 (円)	助成金額 (円)	摘要
1	三浦 恭子	北海道大学	超長寿・がん化耐性齧歯類ハダカデバネズミを利用した新規老化/がん化予防機構の解明	25-27 3 年計画 3 年目	2,000,000	1,999,423	継続
2	佐々木由理	千葉大学	高齢者の属性や社会環境別にみたうつ症状に関する研究	26-27 2 年計画 2 年目	2,000,000	2,000,000	継続

3	新井 智之	埼玉医科大学	地域在住中高年者に対するロコモーショントレーニングのサルコペニア予防効果の検証	26-27 2年計画 2年目	1,995,600	1,995,600	継続
4	上住 聡芳	藤田保健衛生大学	ヒト骨格筋由来間葉系前駆細胞を用いたサルコペニア治療法の開発	26-27 2年計画 2年目	2,000,000	2,000,000	継続
5	山越 貴水	国立長寿医療研究センター	口腔乾燥症の発症における唾液粘性物質の役割	26-27 2年計画 2年目	2,000,000	1,993,114	継続
6	竹藤 幹人	名古屋大学医学部付属病院	心臓・骨格筋の加齢変化を制御するリン酸化酵素の網羅的解析	26-28 3年計画 2年目	2,000,000	2,000,000	継続
7	岡元 昌樹	久留米大学	IL-1ファミリーサイトカインをターゲットとした COPD の新規治療の開発	26-28 3年計画 2年目	2,000,000	2,000,000	継続
8	平識 善大	国立長寿医療研究センター	誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア手法およびその専用口腔ケアジェルの開発	26-28 3年計画 2年目	2,000,000	2,000,000	継続
9	夏賀 健	北海道大学	基底膜蛋白の減少による皮膚老化メカニズムの解明	27-29 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
10	鵜川 重和	北海道大学	高齢者の認知機能と α -ディフェンシン、腸内細菌叢およびその相互作用の解明	27-29 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
11	杉本 昌隆	国立長寿医療研究センター	呼吸器の加齢性変化と疾患機序の解明	27-29 3年計画 1年目	2,500,000	2,497,664	新規
12	相田 潤	東北大学	急増する都市部の高齢者のフレイル予防・介護予防につながる社会環境・保健行動の研究	27-29 3年計画 1年目	1,549,860	2,000,000	新規
13	柳澤 琢史	大阪大学	高齢者の認知機能を改善するニューロフィードバック療法の開発	27-29 3年計画 1年目	2,000,000	2,000,000	新規
14	平野 優	国立長寿医療研究センター	高齢者の再入院率に関する研究（診療看護師によるフォローアップの関わりから）	27-29 3年計画 1年目	2,000,000	303,284	新規
合 計					28,045,460	26,338,945	

(4) 長寿科学関連国際学会派遣事業 【自主財源】

3,196 千円
(3,417 千円)

長寿科学研究に携わり優れた研究成果をあげた若手研究者を、海外で開催される関連国際学会に研究成果発表のため派遣し、長寿科学研究の国際協力・国際交流を図るとともに、研究者育成に寄与する事業として実施した。1 年を 3 期に分け、每期 3～4 名、年間で 12 名の派遣を計画し 13 名に助成した。なお 1 人当たりの支援限度額を 40 万円としている。

N o	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額
1	1	涌井 智子	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 研究所 (研究員)	第8回ヨーロッパ 国際老年学会 アイルランド ダブリン	平成 27 年 4 月 23 日～ 4 月 26 日 (4 日間)	日本の家族介護の変遷と介護者支援 -10年間の変遷から見る今後の課題-	224,970 円
2	1	高橋 里史	慶應義塾大学医学部 (助教)	第 24 回 欧州脳卒中 会議 オーストリア ウィーン	平成 27 年 5 月 13 日～ 5 月 15 日 (3 日間)	CT 灌流画像を用いた脳循環予備能推定の試み	266,640 円
3	1	中川 久子	北海道大学遺伝子病制御研究所 プロバイオティクス・免疫 ロジー研究部門 (特任助教)	第 20 回国際線虫学 会 アメリカ カリフォルニア	平成 27 年 6 月 24 日～ 6 月 28 日 (5 日間)	Lactobacillus gasseri 摂取による線虫の寿命延長機構の解明	179,640 円
4	1	石木 愛子	東北大学 加齢医学研究所 老年医学分野 (大学院生)	国際アルツハイマー 病会議 アメリカ ワシントン D.C.	平成 27 年 7 月 18 日～ 7 月 23 日 (6 日間)	新規タウペットレーサー18F-THK5351を用いた進行性核上性麻痺患者の脳内タウオパチー生体可視化	282,080 円

N o	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額
5	2	池田 晋平	桜美林大学 加 齢・発達研究所 (連携研究員)	第6回アジア太平洋 作業療法学会 ニュージーランド ロトルア	平成 27 年 9 月 14 日～ 9 月 17 日 (4 日間)	要支援・要介護高齢 者の主観的健康観に 影響を及ぼす心理・ 社会的要因	227,110 円
6	2	藤田 幸	大阪大学大学院 医学系研究科 分子神経科学 (特任助教(常 勤))	北米神経科学学会2 015 アメリカ シカゴ	平成 27 年 10 月 17 日～ 10 月 21 日 (5 日間)	成体神経幹細胞の分 化過程におけるクロマ チン高次構造変化	228,110 円
7	2	須磨 紫乃	国立研究開発法 人 国立長寿医 療研究センター 口腔疾患研究部 口腔感染制御研 究室 (流動研究員)	第10回アジアオセア ニア国際老年学会議 タイ チェンマイ	平成 27 年 10 月 19 日～ 10 月 22 日 (4 日間)	高齢者の介護予防を 目的とした複合プログ ラムの効果検証、及 び介入効果への口腔 機能の影響	154,210 円
8	2	高氏 裕貴	横浜市立大学 生命ナノシステム 科学研究科 生 命環境システム科 学専攻 (大学院生)	第10回アジアオセア ニア国際老年学会議 タイ チェンマイ	平成 27 年 10 月 19 日～ 10 月 22 日 (4 日間)	緩やかなタンパク質 合成制限は老化を抑 制する	121,690 円
9	2	中川 威	大阪大学大学院 人間科学研究科 臨床死生学・老年 行動学研究分野 (助教)	アメリカ老年学会第6 8回大会 アメリカ オーランド	平成 27 年 11 月 18 日～ 11 月 22 日 (5 日間)	百寿者の幸福感:日 本とアメリカの比較	241,840 円

N o	期	氏名	所属・職名	派遣する学会名 開催国 都市	開催期日 (日間)	発表題目	実績額
10	3	服部 頼都	国立研究開発法人国立循環器病研究センター 脳神経内科 (客員研究員)	国際脳卒中会議 2016 アメリカ ロサンゼルス	平成 28 年 2 月 16 日～ 2 月 19 日 (4 日間)	緩徐進行性の脳血流低下を示した血管性認知障害モデルマウスの作製	263,100 円
11	3	澁谷 修一	千葉大学大学院医学薬学府 先進加齢医学講座 (大学院生)	遺伝学、ケミカルバイオテクノロジー、および疾患治療における微量ミネラルに関する国際会議 インド バンガロール	平成 28 年 2 月 17 日～ 2 月 20 日 (4 日間)	遺伝性早老症ウェルナー症候群患者細胞が呈する細胞核形態異常と酸化還元バランス破綻は Pt/Pd ナノコロイドにより改善する	178,940 円
12	3	藤井 貴之	京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座 (大学院生)	整形外科基礎学会 2016 年学術集会 アメリカ オーランド	平成 28 年 3 月 5 日～ 3 月 8 日 (4 日間)	ナルディライジン欠損マウスでは抗 2 型コラーゲン抗体誘導性関節炎が抑制される	288,280 円
13	3	安藤 絵美子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 健康科学分野精神保健学分野 (大学院生)	世界精神医学会 疫学・公衆衛生学部 門総会 2016 ドイツ ミュンヘン	平成 28 年 3 月 29 日～ 4 月 1 日 (4 日間)	日本人高齢者におけるペット飼育とうつの関連: 高齢者にとってイヌ飼育は有益か?	316,720 円
平成 27 年度採用者 :13 人 第 1 期(4 人) 第 2 期(5 人) 第 3 期(4 人) 平成 27 年度応募者数 :41 人 第 1 期(16 人) 第 2 期(21 人) 第 3 期(4 人)							2,973,330 円

(5) 若手研究者表彰事業 【自主財源】

2,614 千円

(2,716 千円)

若手研究者表彰事業は、平成 12 年度から実施しており、当時、財団が行っていた厚生労働科学研究推進事業に携わる研究者の中から、優れた研究成果をあげた方を審査評価し表彰することとして、スタートした。平成 23 年度までは、表彰を「財団会長賞」、「財団理事長賞」、「財団奨励賞」として行ってきたが、平成 24 年度からは、表彰の対象を厚生労働科学研究に関わる研究者のみではなく、広く長寿科学研究に携わった研究者とすることとし、表彰名を「長寿科学賞」として表彰し、正賞楯および副賞を贈呈している。なお、副賞には研究費を交付している。

【平成 27 年度 受賞者】

氏名	所属機関・職名	研究課題名	研究期間
島田 裕之	国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター 予防老年学研究部 部長	地域における認知症予防のスキームの構築	平成22年度～ 平成26年度
村山 洋史	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任講師	高齢期における体格指数の加齢変化：推移パターンが死亡率に及ぼす影響とそれを規定する社会経済的背景の検討	平成24年度～ 平成27年度

【表 彰 式】

- ・日時:平成 27 年 11 月 25 日(水)
- ・場所:ホテルメルパルク東京 3 階 百合の間



公益目的事業2 ～情報提供事業～

長寿科学研究の成果や健康長寿に関する情報を広く国民に提供する事業

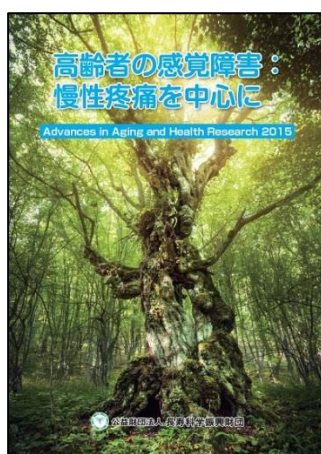
(1) 業績集の発行 【自主財源】

7,362 千円

(7,172 千円)

長寿科学研究の学術的研究成果の中で、社会のニーズにあったテーマを定め、毎年1回、医療従事者向けに編集した研究マニュアルを業績集として発刊し、全国の自治体、病院、大学などの関係機関に無償配布し、その活用を図ることにより研究成果の普及啓発を図った。

今年度は、高齢者の慢性疼痛を中心に専門家の意見や研究成果をまとめた『高齢者の感覚障害:慢性疼痛を中心に』を5,000部作成した。



(2) 機関誌の発行 【自主財源】

18,368 千円

(18,160 千円)

健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かり易く広報するために、機関誌「Aging & Health(エイジングアンドヘルス)」を年に4回(春・夏・秋・冬)各8,000部発刊し、全国の自治体、国立病院、大学などの関係機関、地域包括支援センターなどに無償配布した。

なお、財団HPでも閲覧を可能にし、多くの方にご覧いただいている。

誌面の主な内容は、85歳以上の高齢者で、いまでも元気にご活躍している著名人のインタビュー、健康長寿に関するテーマの特集、ちょっと一息できるものエッセイなどとなっている。



(3) 健康長寿ネット 【自主財源】

18,579 千円
(4,476 千円)

本財団のホームページ「健康長寿ネット」により、老化予防、健康づくり、疾病、介護予防など健康長寿に関する情報を長寿・医療・介護の3つ分類に分けてインターネットを通じて広く国民に提供している。また、介護予防のために、高齢者やその家族がいつでも運動機能など生活機能チェックができ、全国の介護予防相談窓口を検索することもできる。

情報数：578 コンテンツ（長寿 263 医療 226 介護 78 トピックス 11）

平成 27 年度は、次年度にホームページをリニューアルするため、コンサルティング会社からの支援を受け、リニューアル業務の委託業者を選定した。



【リニューアル方針】

- ①高齢者や障害者を含む誰もが使いやすいホームページにするための改善を行う。
(JIS X8341-3:2016 の達成等級 AA へ準拠しアクセシビリティの確保をする。)
- ②ホームページ利用を通して財団の認知度を向上させる。
- ③スマートフォンやタブレット端末での閲覧に対応し、利用者の利便性を向上させる。

【コンサルティング会社】

アライド・ブレインズ株式会社

【コンサルティング会社からの支援内容】

- ①全 HTML 解析、②アクセスログ解析、③ニーズ把握のための利用者アンケート及び④インタビュー、⑤課題整理方針検討、⑥コンテンツ削除支援、⑦掲載情報の分類の見直し、⑧ホームページ構造の設計、⑨CMS(ホームページ作成システム)の必要機能の検討、⑩CMS 製品調査、⑪ウェブアクセシビリティ対応基準書作成、⑫調達仕様要件書作成、⑬提案要領・評価基準作成、⑭業者選定支援

【リニューアル業務を委託する業者および使用する CMS】

アルファサード株式会社

PowerCMS

健康長寿ネットアクセス数

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	累計
アクセス数	345,024	928,674	1,177,278	1,264,455	1,559,317	1,824,788	2,297,598	2,947,528	3,340,732	3,160,831	18,846,225

(4) 長寿たすけ愛講演会開催事業 【自主財源】

5,383 千円

(4,937 千円)

高齢社会の中で、明るく活力のある長寿社会の構築を参加者と共に考え、実践するきっかけづくりの場として、全国で介護予防や健康づくりをテーマとした講演会を開催した。

平成 27 年度開催実績

No	開催実績		
	開催地 日時	内容	参加人数
1	愛知県名古屋市 平成 27 年 9 月 4 日(金) 13:00～16:00	日本福祉大学、愛知医科大学、中日新聞社等との共催 講演1「超長寿時代を生きる」 祖父江逸郎(公益財団法人長寿科学振興財団 理事長) 講演2「自分で取り組む認知症予防の方法」 島田裕之(国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部 部長) 講演3「春風亭小朝の人生笑談」 春風亭小朝(落語家)	670 人
2	香川県三豊市 平成 27 年 11 月 21 日(土) 13:00～16:30	NPO 法人三豊市総合型地域文化・スポーツクラブとの共催 講演1「認知症予防で健康長寿！」 大塚智丈(三豊市立西香川病院 院長) 講演2「簡単脳活体操」 道久仁美(三豊市たくまシーマックス) 講演3「がばいばあちゃんの健康講演会」 島田洋七(タレント)	758 人
3	千葉県松戸市 平成 27 年 12 月 5 日(土) 13:00～15:50	松戸市はつらつクラブ連合会との共催 講演1「高齢者の食と栄養を考えよう」 迫 和子((公社)日本栄養士会 専務理事) 講演2「すこやかな 100 歳をめざして、気軽に体操、今日も元気！」 武井正子(順天堂大学 名誉教授) 講演3「健康落語」 三遊亭円福(落語家)	175 人

- ・3会場において財団役員にご臨席を賜った。

名古屋市：遠島敏行 監事

三豊市：田邊 穰 理事

松戸市：齋藤英彦 理事

(5) 長寿科学研究普及事業 【自主財源】

4,364 千円

(4,369 千円)

国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを決め、長寿科学研究に関するシンポジウムを開催し、研究成果などの普及啓発を図った。

【第11回長寿医療研究センター 国際シンポジウム】

開催日時：平成28年2月6日(土) 9時00分～17時00分

場所：あいち健康プラザ 健康宿泊館プラザホール

テーマ：「Diabetes Mellitus and Dementia」(糖尿病と認知症)

Diabetes Mellitus and Dementia -Bridging Research at the Forefront-

9:30-9:35 Opening Address Kenji Toha, National Center for Geriatrics and Gerontology

Session I Clinical and Diagnostic Aspects

Chaired by Hiromori Araki, National Center for Geriatrics and Gerontology
Akiko Taguchi, National Center for Geriatrics and Gerontology

9:35-11:20 Dementia and diabetes, perspective
Takashi Sakurai, National Center for Geriatrics and Gerontology

Type 2 versus type 3 diabetes in the pathogenesis of Alzheimer's disease
Suzanne M. de la Monte, Warren Alpert Medical School of Brown University, USA

Incretin receptor agonists reduce brain insulin resistance, which can drive cognitive decline in type 2 diabetes, mild cognitive impairment, and Alzheimer's disease dementia
Konrad Talbot, Cedars-Sinai Medical Center, USA

Luncheon Seminar (Japanese)

Chaired by Takashi Sakurai, National Center for Geriatrics and Gerontology

11:45-12:45 Haruo Hanyu, Tokyo Medical University

Session II Experimental Insights from Human Brains and Animal Models

Chaired by Akihiko Takashima, National Center for Geriatrics and Gerontology
Nobuyuki Kimura, National Center for Geriatrics and Gerontology

12:45-15:05 Molecular pathophysiology of insulin depletion, mitochondrial dysfunction and oxidative stress in Alzheimer's disease brain
Yasuko Nakabayashi, Kyushu University

The pathological interaction between diabetes and Alzheimer's disease
Naoyuki Sato, Osaka University

Inductive mechanism of cognitive impairment through neural insulin-like signaling - How does glucose metabolism disorders affect cognitive function?
Akiko Taguchi, National Center for Geriatrics and Gerontology

Type 2 diabetes mellitus enhances GAP generation and accelerates Aβ pathology in nonhuman primate brain
Nobuyuki Kimura, National Center for Geriatrics and Gerontology

Coffee Break
15:05-15:20

Session III Possible Therapeutic Target and Biomarkers

Chaired by Yajin Yoshitake, National Center for Geriatrics and Gerontology
Keiichi Iijima, National Center for Geriatrics and Gerontology

15:20-17:05 Molecular connection between diabetes and dementia
Cheng Xia Gong, New York State Institute for Basic Research, USA

Mammalian target of rapamycin at the crossroad between Alzheimer's disease and diabetes
Salvatore Oddo, Brookings Institute School of Life Sciences Arizona State University, USA

Plasma exosomes as a source of biomarkers for brain insulin resistance in Alzheimer's disease
Dimitrios Kapogiannis, National Institute on Aging/National Institutes of Health (NIA/NIAH), USA

17:05-17:10 Closing Remarks Katsuhiko Yanagisawa, National Center for Geriatrics and Gerontology

お問い合わせ先
国立長寿医療研究センター 国際シンポジウム実行委員会事務局
http://www.ncgg.go.jp/seminar/ISGG_2015.html
参加費無料 定員300名

主催：国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 共催：公益財団法人長寿科学振興財団

糖尿病と認知症

2016年2月6日開催
国際シンポジウムの記録から

主催：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
共催：公益財団法人長寿科学振興財団

公益財団法人長寿科学振興財団

公益目的事業 3 ～調査研究事業～ 長寿科学に関する調査研究事業

アテンプト研究事業【指定寄付金】

19,451 千円
(27,024 千円)

『高リスクを有する高血圧患者における各種バイオマーカーと心血管イベント発症とに対する
アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)の効果 (多施設共同研究・比較試験):
ATTEMPT(A Trial of Telmisartan Prevention of Cardiovascular diseases)試験』

アテンプト研究事業は財団指定研究として、民間企業からの寄付を募り、熊本大学の小川久雄教授を研究代表者に ATTEMPT 研究組織を作り、平成 21 年度から実施している事業であり、7年間にわたる研究事業を終了した。

この研究は、高リスクを有する 40 歳から 80 歳の高血圧患者における、各種バイオマーカーと心血管イベント発症に対するアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)の効果(ARB 群)と通常治療の効果(非 ARB 群)を無作為化2群比較オープン試験にて比較検証するもので、多施設共同研究として行った。

これまでに全国168の医療機関より 1,245 症例の登録(登録参加施設294施設)を受け、3 年間の追跡調査(初期、3 カ月、6 カ月、12 ヶ月、24 ヶ月、36 カ月の調査)を行った。

平成 27 年度は、登録症例フォローアップとして、調査データの整理、蓄積(登録症例、調査及び検査等情報データ入力)を終了し、最終解析の後、論文等研究結果の公表及び研究報告書を作成し、全国の研究参加施設はもとより医学・薬学・看護系大学等へ無償配布し、研究成果の普及促進をした。

